アドバイザー会議資料　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2021年７月

「放課後」で家庭教育を補完する家庭学習支援の取組

横浜すぱいす　北村克久

**１　アドバイザーが目指すところ**

キッズの子どもたちが「斜めの関係のアドバイザー」と関わることにより

　　①社会性とコミュニケーション能力を育む

　　②達成感や自己有用感による自信の回復

　　③「わかる」「楽しい」を実感して学習意欲や学習習慣の喚起

　　　　　　　　　　　※アドバイザーは、毎日会わない「ななめの関係」昔の近くに住むの爺、婆、親戚、一族郎党の復活

**２　家庭教育を補完する放課後**

・多様な保護者（国際化）の多様な価値観（子ども観・教育観・職業観・文化…）

　　・保護者が子どもに割く時間が少なくなる中、家庭学習支援を通して多様な人に出会い育つ！

**３　「放課後」で家庭教育を支援するとは**

　　・【教育の専門性をもっている】メインアドバイザーも多様な保護者であり、多様な価値観をもつ＜効率性＞

　　・【○○の専門性をもっている】ピンポイントアドバイザーの新規プログラム＜多様性＞

**４　横浜すぱいすによる開発プログラム**

　　・メインアドバイザーが他のキッズクラブを回る→アドバイザー会議による情報交換でOK

　　・プログラム開発ピンポイントアドバイザー→メインアドバイザーにもできない専門的プログラム

　　①弁当づくり教室（１２０分）

　　②理科実験教室（１２０分）

　　③ONLINE防災教室（30分×７回）

　　④ONLINE食育教室（３０分×５回）

　　⑤からだづくり体育館編（6０分）

⑥からだづくり鉄棒・外遊び編(6０分)

⑦ONLINEすうがくハカセ（３０分×５回）

⑧ONLINEプログラミング教室（３０分）

⑨自分でできるヘアスタイル（６０分）

⑩植物栽培（３０分）

⑪横浜市花バラ（３０分）

**５　開発プログラムの進め方**

①区役所予算の中で交通費等実費を謝金として執行（キッズ主任と相談）

②○○教室の一環として実施する（キッズニュースに記載）

　　・申込の有無や対象者、実施時間はキッズ主任の判断

　　・メインアドバイザーは、同席が可能ならば手伝う

**６　その他**

・星槎中学校ベイシックの授業

・ONLINEと対面の融合